



2026年7月28日、「みやぎSDGs塾」=？=第5ターム後期3回目の講座として宮城県沿岸部へのバスツアーが開催され、参加者が身近な海と人の関わりについて学びを深めました。

水産資源を育み、漁業と食を守る宮城県の取り組み

この日のバスツアーでは、「海の環境」や「水産資源」、「ブルーカーボン」をキーワードに、七ヶ浜町、東松島市、石巻市を訪れました。

稚貝・稚魚を育成・放流

最初に訪れたのは、漁業資源の安定化を目指して県が設置した宮城県水産技術総合センター種苗生産施設



岩淵さん(右端)の案内で、アワビの稚貝が育つ水槽を見学



新鮮な魚介を使った「七のや」の海鮮丼

(七ヶ浜町)です。アワビの稚貝生産、ヒラメの中間育成などが行われており、育成した稚貝・稚魚は県内各地の漁協に出荷されて海に放流されます。参加者らは屋内外に設置された大型の水槽を見学し、数センチのヒラメの稚魚や、春にふ化して1センチほどになったアワビの稚貝を観察。「公的な取り組みによって海の資源が守られていると分かった」などと感想を話しました。



七ヶ浜町の港で海風を感じながら記念撮影

案内してくれた同施設の岩淵龍一さんは「日頃から、魚が育つ海の環境に思いを寄せてほしい」と参加者に呼びかけました。施設を後にした一行は七ヶ浜町内の「おさかなマーケット七のや」へ移動し、新鮮な魚貝を堪能しました。

漁業を通し、海の未来を一緒に考えよう

石巻市では、「カッコよくて、稼げて、革新的(3K)」を合言葉に持続可能な水産業の実現を目指すフィッシャーマン・ジャパンの安達日向子さんが、海洋環境を守る同法人の取り組みなどについて話してくれました。



安達さんの話に真剣に耳を傾ける参加者



石巻の海を磯焼けから守る フィッシャーマン・ジャパンの取り組み

環境に対する取り組みの一つとして安達さんが紹介したのは、「磯焼け」に関するものです。磯焼けは海底の海藻・海草が消失する現象のことで、海水温の上昇、ウニによる採食などがその原因と



軽快に話を展開する安達日向子さん

東松島市の海と暮らしを考える環境プロジェクト



身近な海の環境を考えるバスツアー

昼食後、東松島市にある東松島みらいとし機構(HOPE)を訪ねた一行は、同所を事務局とする「東松島BLUELANDプロジェクト」について学びました。

地域の海を守る連携

このプロジェクトについて紹介してくれたのは、東松島市を拠点に環境教育事業などを行う一般社団法人オデッセイの成澤みくさんと、地元漁業者として活動に参画する海苔漁師の相澤太さんです。



「将来の子どもたちが住み続けられる東松島をつくりたい」と話す成澤さん

同プロジェクトは東松島の海と陸地を一体的に保全・再生することを目指すもので、HOPE、オデッセイのほか行政、大学、地元漁業者などからなる「東松島BLUELAND協議会」が主導しています。

ブルーカーボンに着目

同プロジェクトでは、大学と漁業者の連携による海洋調査・研究、子どもたちに向けた環境教育プログラムなどのほか、「ブルーカーボンクレジット」に関する事業に取り組んでいいます。「ブルーカーボンクレジット」とは、海藻や海草などが光合成によって大気中の二酸化炭素を吸収し、海洋や海底に炭素を貯留することで生じる温室効果ガスの吸収・削減量を、クレジットとして取引する仕組みです。相澤さんらは海苔の養殖によって創出されるブルーカーボンをクレジット化する試みを進めています。

参加者の声

消費者目線で海を話題に

キューアンドエー 守屋利都子さん

海の環境を守るために自分ができることは多くはないですが、地域の魚介をたくさん食べながら海のことをもっと知り、消費者の目線で話題にしていけることが大事だと感じました。



海と漁業の現状について、漁師の視点を交えて説明する相澤さん

SDGsとうほくコラム

今夏の災害が映した課題と注目されるブルーカーボン

(株)CSRインテグレーション
代表取締役 今田裕美さん



今年の夏は、大雨による河川の氾濫や内水氾濫、崖崩れなどが発生し、災害に直結するケースが多くみられました。背景には、海面水温の高さや大気の不安定化があげられ気候変動も大雨をもたらす要因の一つと考えられています。

気候変動対策では、GXによる二酸化炭素などの温室効果ガスの大幅な削減と、熱中症や農林水産物への影響に対応する適応策を同時に進めることが求められますが、温室効果ガスの排出を完全にゼロにすることは難しいため、排出量と陸や海による吸収量を均衡させ、大気中に蓄積する二酸化炭素濃度の上昇を抑えるカーボンニュート

ラルが世界中で推進されています。森林などの陸上植物が光合成で吸収した炭素は土の中に蓄えられた炭素はグリーンカーボン、海藻や海草などの海の植物が海中や海底に蓄えた炭素はブルーカーボンと呼ばれています。

ブルーカーボンの推進は、宮城県水産林政部をはじめ民間でもプロジェクトが始まっています。多くの企業が取得しているISO9001の2026年改訂版でも、気候変動への配慮が求められるようになりそうです。社会貢献活動にとどまらず、事業活動の中でブルーカーボンを推進する企業や人が広がっていくことを期待しています。



賛同企業
募集中!!



【申し込み・問い合わせ】
河北新報社営業局
TEL / 022-211-1318
MAIL / koukoku@po.kahoku.co.jp

公式HP

第5ターム参加者(敬称略)

【荒町商店街振興組合】庄子康一【YES工房】大森丈広【SKホールディングス】【エネサンス】大井川ありす、高橋里奈【エントワデザイン】佐藤寛和【オフィス塩騒】加藤貴伸【環境再生保全機構】【キューアンドエー】柴田知和、守屋利都子【国分東北】佐藤理紗、小笠原有歩【大日本印刷】阿部巧、小泉一也、矢島迅人、大沼真洋、花村祐太、野口遼南【タイハク】山田妃那、及川達也、白井泉水、永坂舞【日建リース工業】加島重信【日本旅行東北】櫻井寛也、渡辺隆太郎【宮城県赤十字血液センター】庄子いくみ【宮城県民共済生活協同組合】田仲俊貴、西條諒佑、久松紗和、石倉新太郎、石田涼香、加藤明日菜【みやぎ生活協同組合】金田志保【ミライトス】鈴木圭介【山一地所】鈴木瑠里、蔡宜靜【WACO CREATE】岩村和哉、岩村優香【仙台高等学校】渡部真路【尚絅学院大学】内田和希【オブザーバー】紅邑晶子、高浦康有

賛同企業・団体・個人

SK GROUP

都道府県民共済グループ
宮城県民共済

Q&A
キューアンドエー株式会社

DNP
大日本印刷



独立行政法人
環境再生保全機構

タイハク

NIPPON PAPER

みやぎ生協

山一地所

株式会社 エネサンス東北

ENTOWA DESIGN

国分東北

日建リース工業株式会社

日本旅行東北
NIPPON TRAVEL AGENCY TOHOKU

宮城県赤十字血液センター

ミライトス株式会社
Brand Communications & Services

特別協力 SDGsとうほく 協力 宮城県 JICA東北 荒町商店街振興組合 YES工房 オフィス塩騒 WACO CREATE 仙台高等学校 尚絅学院大学SDGsセンター